

平成20年度 化学物質の環境リスクに関する 国際シンポジウム

はばた
～未来に翔く子どもたちのために～

第11回化学物質の内分泌かく乱作用に関する国際シンポジウム
第7回小児等の環境保健に関する国際シンポジウム

会期

平成20年12月14日(日)・15日(月)

会場

東京ビッグサイト(東京国際展示場)

東京都江東区有明3-21-1 TEL:03-5530-1111(総合案内所)

参加費無料

参加申込み締切り:平成20年12月5日(金)

14日(日) 公開シンポジウム

はばた
～未来に翔く子どもたちのために～ 総合司会: 内山 巖雄 京都大学

映像

「未来に翔く子どもたちのためにー子どもの環境保健ー」 ●子どもの脆弱性とは ●世界各国で進む取組 ●子どものために

基調講演

子どもと環境 ～一般市民の立場から～

山崎 理華 主婦

子どもを取り巻く環境と健康

緒方 勤 国立成育医療センター研究所

オランダの現状と取組 ～これまでの調査で分かったことと今後の課題～

アルバート ホフマン オランダ エラスムス大学

米国の現状と取組

～小児環境保健法制定からナショナルチルドレンスタディ(NCS)まで～

エドワード B. クラーク 米国 ユタ大学

日本における取組 ～小児環境保健の現状と課題～

佐藤 洋 東北大学

15日(月) 専門家による公開セッション1～3

セッション1 化学物質等の環境因子とアレルギーに関する研究の最前線について

セッション2 小児環境保健に関する疫学調査 ～世界各国で進められる疫学調査～

セッション3 化学物質の内分泌かく乱作用に関する取組と今後の展望について

主催 環境省 協力 東京都、(社)日本医師会、(社)日本看護協会、(社)日本栄養士会、(財)日本公衆衛生協会、(社)日本アレルギー学会、
日本公衆衛生学会、(社)日本産科婦人科学会、(社)日本小児科学会、(特)日本免疫学会、日本内分泌撓乱化学物質学会

<http://www.congre.co.jp/ed2008>

12月14日(日) 第1日 会場:国際会議場

※日英同時通訳が入ります。

13:00~16:30

開会式

公開シンポジウム

テーマ: ~未来に翔く子どもたちのために~ 総合司会: 内山 巖雄 京都大学

映像

「未来に翔く子どもたちのために -子どもの環境保健-」 ●子どもの脆弱性とは ●世界各国で進む取組 ●子どものために

基調講演

子どもと環境 ~一般市民の立場から~

山崎 理華 主婦

子どもを取り巻く環境と健康

緒方 勤 国立成育医療センター研究所

オランダの現状と取組 ~これまでの調査で分かったことと今後の課題~

アルバート ホフマン オランダ エラスムス大学

米国の現状と取組

~小児環境保健法制定からナショナルチルドレンスタディ(NCS)まで~
エドワード B. クラーク 米国 ユタ大学

日本における取組 ~小児環境保健の現状と課題~

佐藤 洋 東北大学

12月15日(月) 第2日 会場:レセプションホールA

※日英同時通訳が入ります。

9:00~12:00

セッション
1

化学物質等の環境因子とアレルギーに関する研究の最前線について

コーディネーター: 斎藤 博久 国立成育医療センター研究所

- 環境が喘息病態・発症に及ぼす短期的及び長期的影響
- アレルギー性皮膚疾患と環境因子
- 免疫・アレルギー系の制御機構
- ダイオキシン受容体の機能と炎症性疾患
- 環境化学物質によるアレルギーの修飾

ゲイリー WK ウォン

香港中文大学

片山 一郎

大阪大学

岩倉洋一郎

東京大学医学部研究所

本橋ほづみ

東北大学

高野 裕久

国立環境研究所

13:00~16:00

セッション
2

小児環境保健に関する疫学調査 ~世界各国で進められる疫学調査~

コーディネーター: 佐藤 洋 東北大学 / 香山不二雄 自治医科大学

- 米国: ナショナルチルドレンスタディの取組
- ノルウェー: 母と子のコホート調査
- デンマーク: 国家出生コホート
- オランダ: ジェネレーションR
- 韓国: 小児疫学調査の取組(MOCEHプロジェクト)
- 日本: 環境省の取組(小児環境保健疫学調査)
- WHOの取組: 発展途上国における疫学調査の可能性

エドワード B. クラーク

米国 ユタ大学

ヴェンケ ニスタット

ノルウェー 国立公衆衛生研究所

マッズ メルビー

デンマーク 国立血清研究所

アルバート ホフマン

オランダ エラスムス大学

エンヒー ハ

韓国 梨花女子大学

川本 俊弘

産業医科大学

ジェニー ブロンクス

世界保健機関

16:15~18:00

セッション
3

化学物質の内分泌かく乱作用に関する取組と今後の展望について

コーディネーター: 井口 泰泉 自然科学研究機構

- OECD及び米国における化学物質の内分泌かく乱作用の試験法開発と今後の展望
- 環境省による野生生物を用いた試験のまとめと今後の展望
- ヒト・実験動物における化学物質の内分泌かく乱作用に関する最近の話題
- 化学物質の内分泌かく乱作用に関するリスクコミュニケーションについて

レスリー W. トゥオアート

米国 環境保護庁

鐘迫 典久

国立環境研究所

遠山 千春

東京大学

崎田 裕子

環境ジャーナリスト

※セッションタイトル名等は変更する場合があります。

開催概要

環境省は、環境リスクを科学的に評価し、その低減を図るために様々な取組を行っています。本シンポジウムは、その一環として、化学物質の内分泌かく乱作用や小児や胎児の発達・発育への影響など、環境保健分野における諸課題について、国内外の正確な情報を市民、産業、行政等の全ての者が共有し、相互に意思疎通を図ることを目的として開催します。

参加申込み

本シンポジウムの参加は事前登録が必要です。

参加費無料

参加申込み締切: 平成20年12月5日(金)

参加を希望する方は、氏名、住所、電話、FAX番号、E-mailアドレスを明記の上、インターネット、FAX又はハガキで下記事務局宛にお申し込みください。

1 インターネットからの申込み

シンポジウムの公式ホームページから、直接お申し込みください。

<http://www.congre.co.jp/ed2008>

2 FAX・往復ハガキでの申込み

氏名、住所、電話、FAX番号、参加希望日を明記の上、下記運営事務局宛にお申し込みください。

「化学物質の環境リスクに関する国際シンポジウム」事務局
〒102-8481 東京都千代田区麹町5-1 弘済会館ビル6F (株)コングレ内
TEL:03-5216-6956 FAX:03-5216-3115 E-mail:ed2008@congre.co.jp